IV-JAPAN

NEWS【NO.14】2011.8.31 発行

＜目　　次＞

1ページ…外国人震災被災者支援プロジェクト開始
1ページ…冨永代表のNHKラジオ深夜便ラオスリポーター!!
2～3 ページ…外務省日本NGO連携無償資金協力実施中
3ページ…IV-JAPAN事務所スタッフ紹介
4ページ…千客万来
4ページ…ライオンズクラブ家具コース終了報告
5～6ページ…ラオスで活躍する日本人
7～8ページ…幸子のラオス便り
8ページ…タイニュース
9ページ…お便り紹介
10ページ…第8回通常総会開催・寄付者一覧

外国人震災被災者支援プロジェクトを開始しました

未曽有の大震災から5か月経ち、被災地では様々なNPO団体などによって支援活動が展開されております。本会も被災直後より具体的な支援取り組みを行い、このたび被災された在住外国人、とりわけ本会と縁の深い東南アジア諸国の方々を対象とする支援活動を8月22日より『東日本大震災支援UNIT＝略称IV-支援UNIT』としてスタートすることとなりました。

本プロジェクトはIV-JPAN理事会の賛同を得て中央共同募金会（赤い羽根）に助成申請、5月末に助成決定を受けたもので、本会のラオス木工家具職業訓練指導を通じて交流のあるフィリピン・セブ在住の松本重樹さんをチームリーダーとし、着々と準備を進めてまいりました。

この準備中に、福島県内でフィリピン人と結婚していた酪農家が自殺をする痛ましい事件もあり、チームにはフィリピン人看護師と弁護士を加えて、同朋による手厚いケア、支援を行います。また、青年海外協力隊（ラオス）、国連ボランティア（ネパール）などの経験者が加わり海外事情に通じたメンバー構成となっております。

本プロジェクトの目的ですが、既に各方面から寄せられた支援物資の配布はもとより、被災後に地域で埋没、漏れ落ちるような方々に対して、中でも国際結婚をされたご家族を対象に現時点の問題解決、状況によっては行政への橋渡しなどを行い、支援と調査を並行しながら点と点を結ぶ作業を行います。チームは機動性を重んじるために専用車をチャーター、また、現地に負荷をかけないためにキャンプと自炊を中心に3ヶ月間の日程で被災県を廻ります。

震災直後に『災害救助法』を適用された被災外国人は法務省入国管理局資料によりますと7万5千人以上に上り、フィリピン人1万人弱、タイ人4千人弱、ヴェトナム人1千人強などとあり、その家族を含めると膨大な数になります。本プロジェクトでどれだけの支援、ケアができるか未知数な所も多いのですが、細い手でも多数集まれば充分に支えられる信念を持って活動を行いますので、皆様方の本プロジェクトへの応援を改めて本紙面を通じてお願いいたします。

被災地に出発するIV-支援UNIT（左からオフェリア・アレグロさん、松本重樹さん、松本ロウエラさん）

―冨永代表のNHKラジオ深夜便ラオスリポーター！！―　　9月10日午前0時15分深夜放送

NHK『ラジオ深夜便』アジア（ラオス担当）リポーターに2月以来出演している冨永代表ですが、上記日時にて第3回目が放送されます。また、9月1日よりラジオのインターネット配信も開始されるとのことです。こちらについての詳細はNHKネットラジオのページ（http://www3.nhk.or.jp/netradio/）をご参照下さい。皆様、お聴き逃しなく！！

外務省・日本 NGO 連携無償資金協力事業実施中です

修了式の様子

ナーサイトン・プロジェクトは、2010 年 9 月 22 日付日本 NGO 連携無償資金贈与契約に基づく「女性・青少年の収入向上のための職業訓練プロジェクト（第 1 年次）」の結束により、同年 10 月 1 日より事業を開始しました。上位目標を「ラオスにおける女性・青少年の生活向上及び経済的自立の促進」とし、ビエンチャン都教育局、及びナーサイトン郡教育課をカウンターパートとして職業訓練センターの設立やトレーナーの育成など職業訓練に関わる運営指導を行っています。

本事業では、ビエンチャン職業訓練センター同様に、中学や高校などを中退した青少年や、卒業しても専門技術がなく就業や起業が難しい女性や青少年（15 歳から 40 歳）を対象に、縫製、理美容、調理の三分野での職業訓練を実施しています。ナーサイトン職業訓練センターでは、子供を抱える主婦らも多く、家族の協力を得て訓練に参加しています。この三分野は起業するに当たり比較的少ない投資ですむこと、必要な資機材の現地調達が可能なことから起業しやすい分野で、日本を含む外資系企業の進出や生活レベルの向上、外国人観光客の増加などにより就職しやすい分野です。

当会では、これまでに小学校建設などの建設工事を数多く手がけている建設会社を選定し、2010 年 11 月 1 日に職業訓練校の建設工事契約を結束しました。これにより、11 月 7 日から工事が開始となり、同時に当会が継続して支援を行っている教育省学校制度外教育職業開発センター木工コースにて家具類を製作、ビエンチャン市内の販売店にて実習に必要な資機材の調達を行いました。

校舎の建設や資機材の準備に平行して、2010 年 12 月より訓練生募集の準備に取り掛かり、ナーサイトン郡教育課職員が郡内の各地区を巡回して広報を行い、応募者を集めました。縫製コースには 33 名、理美容コースには 27 名、調理コースには 16 名の応募があり、初回の募集に対して多くの応募者が集まり、これから開始される職業訓練への大きな期待を感じました。

また、職業訓練センターの開校に先立ち、トレーナー資格者養成の為のトレーナー養成講習(Training of Trainers:TOT)を開催しました。2011 年 1 月 10 日から 28 日の 3 週間（15 日間）に渡ってトレーナー講習を実施し、受講生の全員が無事にトレーナー資格を証明する修了証を受け取ることができ、ホッと一安心です。

2011 年 1 月末には、職業訓練センターが無事完成し、ナーサイトン郡知事、ビエンチャン都教育局副局長、ナーサイトン郡教育課副課長、在ラオス日本国大使館冨田書記官のご出席を頂き、2 月 2 日午前 9 時半より開所式を行いました。最終的な職業訓練への参加人数は、家庭の事情もあり、縫製コースが 16 名、理美容コースが 18 名、調理コースが 15 名となりました。そして、3 月 30 日には、初級レベル（8 週間）の全訓練を終了し、ナ郡教育課より縫製コースの 15 名、理美容コースの 17 名、調理コースの 14 名に対して職業訓練初級レベルの修了証が授与されました。

ミシン刺繍

4 月 4 日より中級レベルの職業訓練を開始し、5 月 10 日よりミシン刺繍のサッシピムさん(タイ人)、5 月 30 日より理美容の堀井雅由美さん、6 月 9 日より日本料理の高倉昌子さんら各コースの専門家を迎え、カリキュラムやトレーナーのレベルアップを図ると共に、訓練生への指導と交流を深めて頂きました。堀井さん、高倉さんには中級レベルの修了式(6 月 29 日)にも参加して頂きました。修了生を交えての慰労パーティーでは着飾ったり、念入りにメイクアップをしたりして、日本＆ラオス料理を食べながら親睦を深めることができました。

ナーサイトン郡はビエンチャン市内より約 17 キロ離れた都市近郊の街で、水田地帯が広がり、住民の多くは農業を中心とした生活を送っています。しかし、電気や水道、オートバイや自家用車の普及などによって現金収入を得ることが必然となり、農業中心の生活から安定した収入の得られるサービス業や工業への転身が進んでいます。同時に、住宅地域の拡大や他県からの移入による人口増加、生活レベルの向上により、雑貨店や飲食店、

美容店などの小規模店も増加傾向にあり、地価に見合った立地条件や労働力を求めて労働集約的な縫製産業などの企業がナーサイトン郡へも進出しています。

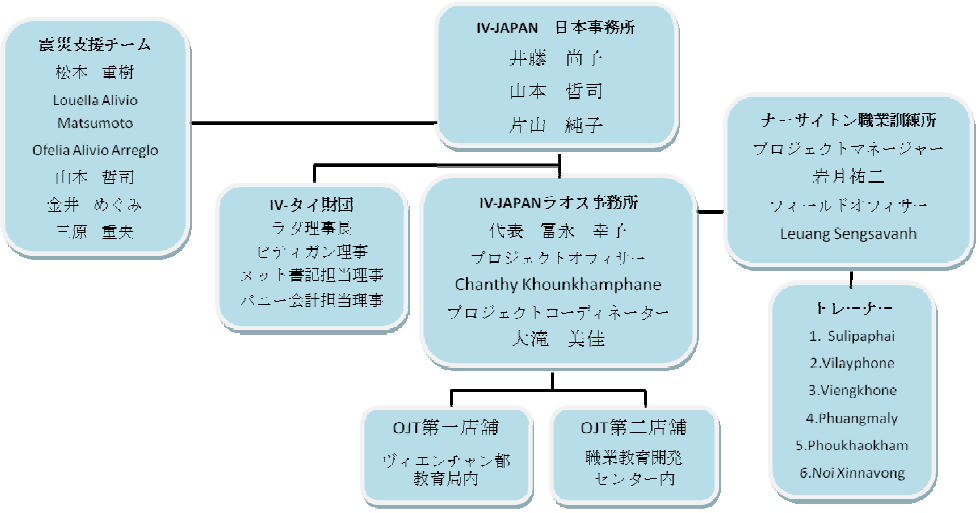
長閑なラオスにも現代社会の波が押し寄せて来ました。都市近郊の地域住民、特に女性や青少年の職業技術を向上させることは、今後のラオス全体の発展、経済成長を支える上でも重要な課題と言えます。ラオスの人の笑顔を絶やさないためにも、できる限り多くの地域住民に職業訓練への機会を提供し、家族や地域住民の生活向上に役立てて頂きたいと考えています。

ナーサイトン・プロジェクト現地事業責任者
岩月　祐二

堀井専門家による美容コース授業

高倉専門家による調理コース授業

IV-JAPAN 事務所スタッフ紹介



＜ラオス事務所　職員紹介：チャンティ　プロジェクトオフィサー＞

私の名前はチャンティ・クンカンペンといいます。2009 年から現在までプロジェクトオフィサーとして IV-JAPAN に勤務し、業務管理、プロジェクト活動促進、ラオス政府へのプロジェクト継続申請手続き等行っています。IV-JAPAN で NGO プロジェクトに従事することができ、とても嬉しく思っています。IV-JAPAN は大きな団体ではありませんが、ラオスの草の根レベルのニーズを適宜に汲み取り活動しています。私はラオスの人々のために働く良い機会に恵まれたと思っています。なぜなら、IV-JAPAN は、調理・理美容・縫製の 3 分野で職業訓練を行い、教育的に恵まれない、あるいは無職の女性・青年の手助けを行っているからです。IV-JAPAN の活動支援を通して、15 年前からそして将来も引き続き素晴らしい寄付者としてラオス国民を援助し続けてくれる日本政府と日本の人々に対し、ラオス国民を代表して心から感謝いたします。ありがとうございます。

千客万来

～JICA エッセイコンテスト高校生・早稲田大学スタディツアー・JICA 海外教師研修～

ビエンチャン事務所には 7 月、8 月と多くのお客様がいらっしゃり、まさに千客万来の時期となりました。

●7 月 26 日に JICA エッセイコンテスト入賞者の高校生 11 名が来訪。ナーサイトン事業の岩月プロジェクトマネージャーが IV-JAPAN の事業紹介を行い、その後職業訓練校の授業風景・OJT（上級コース）を見学してもらい、訓練生たちとの交流を楽しんでいた様子でした。

JICA エッセイコンテスト入賞者

早稲田大学スタディツアー

●8 月 6 日には、毎年恒例の早稲田大学のスタディツアーご一行様（教授含め 21 名）がいらっしゃいました。IV 事業内容の紹介、質疑応答、その後 OJT のレストランで松花堂弁当を召し上がっていただき、サロンではネイルやマッサージ・シャンプーなどを体験していただきました。

●8 月 9 日は JICA 教師海外研修制度で 11 名の教員の方々が来訪。同じく IV-JAPAN の事業紹介後 OJT レストランにて昼食、その後サロンにてマッサージ、シャンプー、ネイル等を体験。やはり研修制度に参加されるだけあって、熱心に見学される先生方ばかりで、日本に帰って生徒にみせるために、と冨永代表にビデオ撮影インタビューを行う先生もいらっしゃいました。どの団体の方々も、実際に OJT 店舗にて訓練生との交流を楽しんでいただいた様子で、ご案内したこちらもうれしく感じました。訓練生にとってもいい刺激になったと思います。

JICA 教師海外研修ご一行様と

JICA の西山さん、戸谷さんと共に
教育省訪問の様子

●8 月 22 日は JICA 地球ひろばより西山調整員が JICA ラオス事務所の戸谷様と共に視察にいらっしゃいました。当会ビエンチャン事務所、当会の JICA 草の根事業カウンターパートであるビエンチャン都教育局、教育省学校制度外教育局等関連機関を冨永代表と共に訪問し、事業内容について協議致しました。その後 OJT 第二店舗予定地へ見学にお連れ致しました。当会の事業活動について多くの方々にご理解いただき、今後も活動を維持・展開できるよう、冨永代表を筆頭にラオス事務所スタッフ一同頑張ってまいります。

東京ウィルライオンズクラブ家具コース終了報告

学校制度外教育開発センター（NFDC）と IV-JAPAN との協力のもと、2011 年 5 月 17 日より 19 日間、家具職業訓練コースを実施しました。今回の訓練コースは第５回目となり、８名（内女性１名）の訓練生が周辺の村々から参加しました。訓練コースは IV-JAPAN と、NFDC から派遣されたトレーナー各 1 名により行われました。訓練でトレーナーは、デモンストレーションを行って実習と理論の両方を指導し、机４台、書類棚３台、木製椅子１５脚、会議用机２台を作成して訓練は無事終了しました。

訓練コースの様子

ラオスで活躍する日本人～第1回～

今号から、ラオスで活躍する日本人を紹介していきます。第1回はユニークな元ラオス日本大使坂井氏。1998年に当会がラオスで初めて「日本文化紹介」事業をラオプラザ・ホテルと国立図書館の2カ所で開催した時です。大使にご挨拶に伺ったときに、大使から「私も退職したらNGOとして働きますので、頑張ってください」と励まされ、大使館所有の桃の節句の雛段人形を展示して協力してくださることになりました。また、JICAラオス所長へも協力をお願いしましたが、日本人会理事会があるので、当日は欠席するとのことでした。大使の親切な対応には涙が出てきました。当日大使夫人は「国有財産の雛人形が盗難に遭うといけないので」と、展示会場を離れず、夕食も召しあがりませんでした。色々と想い出深い坂井氏です。3ページの原稿をいただきましたが、２ページに編集して掲載させて頂きます。

私が天下りをしなかった理由

坂井元大使

私は、昭和35年（1960年）4月に外務省に入省し、39年後の平成9年（1999年）10月にラオス駐在大使をもって退官した。63才であった。しかし不思議なものである。願ってもいないのに、退職の際の辞令には「願いにより辞職を承認する」とあった。

実はこの退官に先立ち、外務本省から、「もうそろそろ御退官のころではないかと思われるので、この秋にでも御退官いただくことを考えている」という電話が入った。ラオス駐在が4年近くなろうとしていた時であったので、私としては続投したい強い気持ちがあったものの、退官することに大した不満があるわけでもなかった。他の大使の中には、続投したいという強い願望を持って辞職勧告にはかなり強い抵抗をする場合もあると聞き及んでいる。それにもかかわらず、何れも「願いにより辞職」しているのである。

このように問題が表面化せずに、『願いによる退職』が行われる一つの理由は、天下りである。すんなりと退職勧告に応じない場合、外務省の人事当局の準備する天下り先の話に暗雲が立ち込めることが考えられるのだ。国家公務員として、お上（おかみ）の命ずるままに働き、身の処し方をお上に預けてお上の方針に従いひたすら働いてきた者の多くが、還暦を経てから大使としての体面を維持しつつ、新たに別の世界に職を探してそこに飛び込むことは至難の業なのだ。従って若干の抵抗をして、わずかのお目こぼしを得ながらも、最終的には呑まざるを得ないのだ。

上記のとおり退官の話があって間もなく、退官後の勤務先としてとある研究所の理事のポストがある旨の連絡を、本省の人事課長から受けた。私は即座に、配慮に謝意を表明しつつ辞退する旨申し上げた。それと同じころ、別の団体からも特定商社の顧問の話を持ちかけられた。その配慮にも謝意を表しつつ辞退申し上げた。いずれも2~3年間勤めるものと思われ、特に重要な判断を要するようなものでなく、おとなしく席に座して、先人が積み重ねてきた仕事を守って行くというものである。そのような生き方は、無意味ではないのだが私にとっては魅力あるものではなかった。私は、今まで生きてきて学んだ積み重ねの上に、手探りをしつつ新たなる自分の役割と可能性を求めて行くやり方がしたかった。それは新たなる挑戦なのである。うまくいかないかも知れない。でも新たなる可能性を求めていこう。

それに、この4年間で大きな興味を抱き、大好きになったラオスの文化と人々のために何かしよう。というより深いかかわりを持ち続けたいという衝動にかられていたのだ。これは11年経た今でも変わりはない。

そこで、まず第一に考えたのが、郷里熊本にラオス料理とラオス伝統の織物の館「シンカム」を開くこと、そして「熊本ラオス友好協会」の設立であった。

熊本天草の漁村で育ち、井戸端で包丁を研ぎ、魚を処理するのが日常茶飯事であった私は、外務省に入って

からも、ゴルフもマージャンもしたことがなく、海釣りと料理が趣味となっていたが、ラオスにきてその食文化に大きな感動を覚えた。主に低地平野部に展開するラオ族をはじめとするタイ語族は、我々日本人にとって将に米食と発酵食品文化の先達ともいうべき人々である、という大きな発見をした。沖縄の泡盛のルーツであるラオスの米焼酎、寿司の原型である「なれずし」等等、そして米食品と発酵食品の裾野の広がりの大きさに驚いたのである。またラオス全国を訪問して、ラオス全土に展開する部族の多さとその生活の多様さに驚き、特に女性達の衣装の美しさに感動した。そこで私は、熊本にラオス・タイ料理とラオス伝統織物の館「シンカム」を開くことにした。そこには、私のパキスタン総領事とラオス大使時代に料理長として同行してくれた東北タイ出身ラオ族のナロン君夫妻と、ラオス最大の伝統料理店クアラオ・レストランの料理長アムシー夫人にも来てもらっての開店であった。このシンカム・レストランは、2001 年 5 月より 2009 年 4 月までの 8 年間の営業であり、経営は成功したといえるものではなかったが、この経営の中でラオス人 4 名、タイ人 3 名を熊本 YMCA 日本語学院で勉強させることができた。

熊本ラオス友好協会について、通常この種の協会は既に誰かが立ち上げてそこに会長として招かれるものであるが、熊本ラオス友好協会は、全く私の手探りであった。1999 年 6 月熊本にて協会設立総会を開いたが、すべて自ら準備した手配と手順での開催であった。このときの会員は 110 名。その後 10 年を経て 250 名になった。この 11 年間の成果については、他のこの種の協会ができなかったほどの成果だと自負している。この間、ラオスの現役の首相御夫妻一行ほか、多くのラオスの要人の来訪を得ている。また、私が自ら添乗員・ガイドになり、熊本からの親善訪問団も毎年ラオスへ 3 回派遣され、これまでに 200 名以上がラオスを訪問している。また協会の特別総会に秋篠宮殿下の御臨席をも得た。

この協会のもう一つの重要事業である高校生支援事業も大きな成果をあげていると自負する。ラオス全国各県の特に優秀な中学生（県で 1~3 番の成績）年間 40 名をヴィエンチャン高校に進学させ、そこに寮を建設して住まわせ、これまでに約 400 名を支援してきている。彼らのほとんどがラオス国立大学に進学しているが、この大学のドンドク・キャンパスにも男女各 74 名収容の寮を建設して支援している。これらの大学進学の学生の約 30～40%が、日本、中国、ベトナム各国に国費留学生として留学している。この学生達にかける私の夢は果てない。しかし自負するのは、お金を出してあげるという資金援助だけではなく、この若い学生達と向き合って進路相談までするのである。コネのない大学生については、就職活動のお手伝いもしようというものである。特に公務員については保証人になること、あるいは大臣・副大臣に直接紹介したり、推薦状を書くこともある。

このほかに、医師研修支援もある。ラオスの優秀な若手医師を熊本県の外国人研修制度に送り込むというもので、これまでに 8 名の医師を送り込んだ。最初の研修生は、熊本の国立病院で 9 ヶ月の研修後 10 年を経て現在ヴィエンチャン都の保健局長となっているインラワン女医である。

私は昨年、熊本大学薬学部及び医学部と、ラオス保健科学大学との間の協力協定に署名することに協力したが、今年は熊本大学とラオス国立大学間の協力協定署名に向け、両大学に働きかけている。これによりラオス保健科学大学及びラオス国立大学と、熊本大学間の交流・協力関係が緊密化、強化していくことを期待している。同協定以前に、既に熊本ラオス友好協会のラオス遠隔地高校生支援事業によって、ヴィエンチャン高校を卒業し、さらにラオス国立大学工学部を卒業した学生 1 名が、現在熊本において日本語を習得中であり、来年 4 月から熊本大学大学院法学部に進学することになっている。授業料・生活費は私の支弁。熊本ラオス友好協会の支援によって、学生の熊本留学が増加することを目論んでいる。やがてこれらの学生が熊本で学んだ後ラオスへ戻り、ラオスにおける重要な人材集団が形成される日が来ることを夢見てのものである。

以上、私が退官後手探りでやってきた一連の主な活動であり、これらは天下りではできなかったことだと思う。しかしやりたいことはまだまだたくさんある。

これまでの活動は、多くの友人達に助けられ、支えられてのものであった。ラオスのシサワット・ケーオブンパン元首相、ピンマソン元教育大臣、ポンメーク元保健大臣兼ラオ日友好協会会長をはじめ多くの閣僚、そして多くのラオスの方々、それに、熊本を中心とする多くの友人達の御指導と御協力と御支援を得た。この場を借りて深甚たる謝意を申し上げたい。

元ラオス駐在日本国大使
現熊本ラオス友好協会会長
坂井　弘臣

幸子のラオス便い No.20

１．ラオスで地震・津波被災者支援チャリティーコンサート開催

2011 年 4 月 6 日に、ラオスで日本の東日本大地震・津波被災者のためのチャリティーコンサートが開催されました。ラオスの人気歌手アレキサンドラ（写真右）を筆頭に、有名ポップ歌手やグループが総勢 100 名ボランティアで出演し、その様子は生中継で TV 放映されました。また、会場では電話ホットラインにてミス・ラオスやボランティアが電話対応をし、常時義捐金の受付を行いました。IV-JAPAN もコンサートの実行委員の一団体として参加し、コンサートに先立ちバザーを企画しました。会場に募金箱を設置し、チャリティーコンサート T シャツの販売、ラオス在住日本人の皆さまに呼び掛けてご提供いただいた品物の販売、そして IV-JAPAN 上級コース（OJT）でおにぎりの販売を行いました。また、会場には布を用意し、被災者へのメッセージ”Heartfelt Friendship”『心のともだち』として来場者の皆さまに応援メッセージを書いていただきました。この布にはラオス外務副大臣も書き込んで、横田大使に手渡されました。当日集まった義捐金は総額 532,006,000kip（約 532 万円）。全額がラオス外務省を経て日本政府へと寄付されました。参加したあるラオス人は「普段日本はラオスを援助してくれているから、日本が大変な今、日頃の感謝も込めて何か恩返しができれば」と言ってくれました。このチャリティーコンサート以外にも、被災者支援のイベントが多数行われ、ラオスと日本の友好関係を再確認致しました。

冨永代表とラオスの有名歌手アレキサンドラ

実行委員会の団体

2. 菊田志津子さん寄贈の帯が震災支援に

ラオスでは和服を着る機会が多いので友人の菊田さんが帯や着物を冨永にくださいました。ラオスでは日本に日ごろの援助の恩返しとばかりに東日本震災の義援金がたくさん集まりました。国際女性協会（ＷＩＧ）も震災の義捐金集めにオークションを企画し、勝手でしたが、菊田さんの帯をオークションに出し、なんと 1000 ドル（約 8 万円）で落札され、日本大使を通して義捐金として日本に送られました。感謝とともに帯が別の形で生かされたことをご報告させていただきます。

3.故竹村良孝元日本人会会長の葬儀の御香料をご寄付いただきました

2010 年 12 月 14 日、当時日本人会会長を務められていた故竹村良孝様がご急逝されました。故竹村様のご遺族様のご意向により、御葬儀の際の御香料（$1,520＋1,500,000 キップ）を「ラオスを愛した故人の思いと供養のしるし」として、本社 JALUX 鈴木部長より当会へご寄附いただきました。わざわざラオスまで来ていただいた鈴木部長に、ご遺族様への感謝状をお渡しいたしました（写真）。ご遺族様の御好意に応えるべく、当会の職業訓練に有意義に活用させていただくとともに、心より故竹村様のご冥福をお祈りいたします。

タイ・ニュース

8月5日 ピブン福祉財団へ2011年度奨学金授与

タイ財団ラダ理事長、パニー会計担当理事、ピティガン理事、冨永の４人でピブン福祉財団のある法務省矯正局へ伺い、例年通り２０人分の奨学金を受刑者の子どもたちへ渡しました。今年は特に国王８４歳の記念すべき年で（タイでは一二支の７周目）、祝賀コンサートを８月１６日にピブン福祉財団が主催し、その折に更に３０人分の奨学金をタイＩＶ財団が支援致しました。（関連記事以下）
矯正局応接室で副局長に奨学金の小切手を渡した後、日タイの刑務所事情について話がはずみました。

8月16日「タイ国と国王・王妃両陛下の繁栄を願って」チャリティーコンサート開催

タイ国皇太子の私設秘書官のカセム・ユスック空軍元帥が殿下のご名代として出席し、チャリティーコンサートが開催されました。このコンサートは国王の84回目の誕生日と同王妃の79回目の誕生日を記念して法務省矯正局（ピブン福祉財団）、文化省、クリスチャン受刑者財団により企画されました。タイの刑務所では色々なクラブ活動を受刑者の社会復帰のための心理療法として取り入れており、このイベントでは男女211名の受刑者による混声合唱が今回初めて実現しました（写真下）。普段は男子刑務所、女子刑務所に分かれて合唱活動をしています。コーラスに先立ち受刑者代表から「ドラッグをやって2度も刑に服しているが、コーラスに参加して、全く愚かなことをしたと反省している。出所したら社会のために役立ちたい。」とタイ語と英語で挨拶がありました。冨永は別室でタイ王家より長年の受刑者子弟へのＩＶ－ＪＡＰＡＮ奨学金授与に対し感謝の盾を頂きました。裏話ですが、皇太子の第1王女が出席するというので、3時間も前からリハーサルのために会場で待機して、歩き方、お辞儀の仕方、記念写真の並び方、退室の仕方等々、微々に亘り色々とご指導を受けました。タイ王族がご臨席される場に同席するというのは大変名誉なことで、大変なことなのだと感じました。結局コンサートには王女様は出席されませんでしたが、ご名代は、2階席最前列にたった一人で座ってコンサートを鑑賞されていました。

ご名代から感謝の盾をいただく冨永代表

尚、冨永代表は1997年にも、タイ国王より長年の国際貢献に対し勲4等ディレーク・クン・アポン章をいただいております。

お便り紹介

冨永代表が 7 月 20 日に広島、7 月 22 日に和歌山を訪れ講演会を行いました。参加された皆さまから感想が届いていますので、ご紹介します。

1. 冨永代表が（財）広島国際センター「ひろしま国際塾」で講演

（財）ひろしま国際センターが行っている第 4 期ひろしま国際塾の講師として、冨永代表が「ラオスでの人材育成について」講演しました（写真）。当日参加された受講生の声をいくつかご紹介いたします。

・ ＮＧＯ活動のカウンターパートが政府機関であり、全て許可制というがちがちの規制の中で、ＩＶ－ＪＡＰＡＮが素晴らしい実績を上げていらっしゃることを知り、その苦労は筆舌に尽くしがたいものだと思った。

・ラオスへの金銭的な支援ではなく、技術を身につけさせる職業訓練システムの確立への支援はすばらしいことであり、ラオスに大きく貢献されていることが理解できた。

2. 冨永代表が和歌山みどり幼稚園を訪問

みどり幼稚園

みどり幼稚園の教員の方々と

7 月 22 日に冨永代表が和歌山県を訪れ、長年の奨学金ドナーである、みどり幼稚園を訪れました。みどり幼稚園は 1992 年以来、延べ 131 人分の奨学金を頂いています。みどり幼稚園園長の石黒先生のお便りをご紹介します。

「7 月 22 日には過密なスケジュールの中、みどり幼稚園にお越しいただき一同大感激でした。タイでの就学支援活動、ラオスでの職業訓練の意義など、これまでのご苦労を生き生きとお話いただき、思わず身を乗り出し聞き入ってしまいました。園児たちが色々な人たちの生活を知り国際社会へ目を向ける事の出来る貴重な機会となっています。反対にお伺いし御礼申し上げねばならない立場なので恐縮しています。これからも、子どもたち・保護者・教職員が協力し、長く活動に携わらせていただきたいと願っています。」

3. テクサの会を訪問

テクサの会の皆様方と

また、同日７月２２日に訪れたガールスカウト和歌山･テクサの会は、故坂本三代リーダーが生前より考えておられました、ガールスカウト活動の発展及び将来を担う若い女性のサポートを目的に、2006 年 8 月に設立され、現在 74 名の会員がいらっしゃいます。訪問後に会員の岩橋様からいただいたお手紙を一部抜粋して紹介いたします。「冨永さんのラオスでの活動のお話をお茶を頂きながら、親しく、楽しく聴かせて頂きました。坂本リーダーと冨永さん（元スカウト）はガールスカウトを通じて親しくされて、お互いの活動を深く理解し長くお付き合いをされていました。私たちも坂本リーダーと出会ったことで、冨永さんを始め魅力ある方々との出会いがあり繋がりが出来ました。これからも人の事を思いやる事ができるスカウトが育つよう、そして広く活躍して貰いたいとの思いを込めて、ささやかでも細く長く少女達を応援できるようにテクサの会員一同も元気に楽しく活動を重ねて行きたいと思っています。」

当日は皆様非常に興味深くラオスの話を聴いてくださり、「来年あたりラオスのスタディツアーを企画したい」ともおっしゃっていました。

第８回　通常総会開催（於：さいたま市立生涯学習総合センター）

2011 年 5 月 14 日（土）に通常総会が開催され、以下の事について審議を行い承認されました事をご報告致します。
・2010 年度　事業報告・決算報告　支出合計　2,574 万円(承認)　・2011 年度　事業計画・予算　3,418 万円

≪2010 年度事業報告概要≫

1. 日本全国より奨学金ドナーを募り、タイ、ラオスの子ども達と職業訓練生に奨学金（１６８名）を支給し、教育の底上げに寄与した。
2. ヴィエンチャン職業訓練／理美容、調理、縫製（JICA 草の根パートナー事業第２フェーズ・３年目）：ラオス住民の経済的自立支援のための職業訓練を JICA との契約のもとに実施した。（株）資生堂、タイ協力事業。（２０１０年５月終了）
3. ラオス・ナーサイトン郡職業訓練／理美容、調理、縫製（外務省 NGO 連携支援無償資金協力事業）：ラオス住民の経済的自立支援のための職業訓練を実施した。(2010 年 10 月から 3 年間の予定)
4. 木工家具職業訓練(東京ウィルライオンズクラブ支援事業）をラオス・ヴィエンチャン都教育省学校制度外教育開発センターに於いて実施した。
5. 建設職業訓練を兼ねた小学校建設（ダイエーグループ労働組合総連合会・オールセイフーユニオン）：ラオス・ヴィエンチャン都サイタニー郡パクサップマイ小学校建設を実施した。
6. ラオス・タートインハン村小学校における図書館建設を実施した。(財団法人　麗澤海外開発協会支援事業)
7. 第 14 回ラオススタディツアー：成人会員の中から 11 名が参加し、ラオスを通して途上国の実情を知り、当会のプロジェクトを理解してもらうためのツアーを実施した。

≪**お知らせ**≫
カノック奨学金の郵便振替口座名が**カノック奨学金**から**ＩＶ－JAPAN** に変更になりました。今後もご協力宜しくお願い致します。

≪**お願い**≫
この度いち早く皆様に情報をお届けするためにメーリングリストを作成したいと思います。ご参加いただけます場合メールアドレスを IV-JAPAN 事務局までお知らせいただけますと幸いです。メール、FAX、その他の方法で宜しくお願い致します。

♡♡♡♡カノック奨学金ドナー紹介　（2011/2/1 から 2011/8/31 まで）順不同　♡♡♡♡

佐藤美津子（5 口）、小林愛子、比嘉エリ子、石黒　進（2 口）、小暮　秩・道子、上原道子、谷本善江
伊藤裕子（3 口）、宮下ひとみ、嶋美喜子（4 口）、菊原享子、荒井みど里、武藤廣子（2 口）、吉原喜代
西条喜子（2 口）、片山純子(2 口)、小川昭子、濱口敏行（3 口）、近藤利雄（2 口）、森　典子、奈良伊世
玉寄明美、小林佳代子、飯田昌美、大橋國江（2 口）、伊藤睦子、石井有美、賀元澄子、菅原由紀、入澤恵子
渡辺昭子(2 口)、大高　巽、早坂　弘、込山まち子、春日　曠、渡久地澄子（5 口）、田上恵子、宗像邦司
松茂良興勇（2 口）、今井京子、五十嵐香苗、小野寺さとみ、田村福代、津本蓉子、大野宏江（3 口）
大野　歩・望、足立毅平、高石順子、小田切智子、伊東慶子、土屋祥二、土屋多賀子、謝花恵子（2 口）
廣田秀子、小林明子、根橋淑江、岩月優子、三澤純子（2 口）、ガールスカウト大阪府７３団シニア
中村英一、佐藤吉秀、福永文代、白川誠之、中田みどり、座安きくえ、斎藤ふみ子、和田治江、橋本多映子
利根川恵子、泉　久子（2 口）、飯田さゆり、富井伊都子、又吉ミチ、ウィメンズめぐろ有志、河口道子
渡辺幸江、金風由起子、岡庭史子（2 口）

❤運営・プロジェクト費寄付者一覧❤

（2011/2/1 から 2011/8/31 まで。順不同。一万円未満は省略させて頂きます。ご了承下さい。）

伊藤裕子（300 万円）、土屋エミ子（1 万円）、吉田いち子(1 万円)、塩島輝子（1 万円）、福永文代(1 万円)
竹村直子（$1,520+150 万 kip）、池田敏秀(1 万円)、菊池正博(2 万円)、齋藤加代(1 万円)、豊田利久(1 万円)
河島明子(1 万円）入江利恵子(1 万円）、ＩＶタイ財団ラダ理事長（4 万 7000 円）、坂部玲子（$100)
西村正雄（$100）、冨永幸子(＄1,000＋1 万円）、井藤尚子(1 万円）、㈶麗澤海外開発協会（10 万円）
吉野貴美子(1 万円)、藤田廸枝(1 万円)、飯田昌美(2 万円)、片山純子(1 万円)、高橋勲子(1 万円）―敬称略―

＜随時サポート会員を募集しています＞

奨学金ドナー及び国際協力費・運営費ドナーを随時募集しています。一人でも多くの皆様のご協力を宜しくお願い致します
① 奨学金ドナー　年１口　**12.000 円**以上
② 国際協力費又は運営費ドナー　★個人 年１口　3.000 円以上　★団体及び法人 年１口　10.000 円以上
・申込方法(銀行振込の場合は振込された方の氏名と会員番号の下 4 桁の明記をお願い致します)
郵便振替　：(口座番号)　00140-5-537168　**(加入者名) IV-JAPAN**　(変更になりました)
銀行振込　：埼玉りそな銀行浦和中央支店　(※銀行振込の方は事務局までご住所等詳細をお知らせください。)
(普通)　口座番号:5038052　名義人：(特非) 国際協力 NGO・IV－JAPAN

【特定非営利活動法人　国際協力ＮＧＯ・IV-JAPAN】

日本事務所
〒330-0856　埼玉県さいたま市大宮区三橋 2-545-2
シティヒルズ 101
TEL:048-622-8612 / FAX:048-622-8612
E-mail:iv-japan@vanilla.ocn.ne.jp
http://www6.ocn.ne.jp/~iv-japan/

ラオス事務所
P.O.BOX 7920 VIENTINE, LAO P.D.R.
TEL/FAX: +856-21-261240
携帯電話；+856-20-55515122
E-mail: ivjapan.vte@gmail.com